



ここに居る幸せを歌う
桜井真樹子
 さくらい まき 39歳 大阪府生まれ
 天台宗大原流声明、ボーカリスト
 埼玉県 飯倉寺



邦楽が電子音に広がり
鷺見あや
 すみ あや 25歳 大阪府生まれ 尺八奏者
 京都府 妙心寺東林院



大地と水との共鳴を
大橋智夫
 おおはし ともお 35歳 三重県生まれ
 ティースコーポレーション社長
 京都府 大原宝泉院

photo 陣田修一郎

響音

理性では説明できない懐かしい音がある。
 調べをたどれば、古代の記憶がよみがえる。
心震える瞬間を求めて。

江戸時代に寺院や茶室などの庭園用に編み出されたのが水琴窟。手水鉢などから滴り落ちる水滴を、地中に埋めたかめのなかで共鳴させる仕組み。大橋は水琴窟を鑑賞する集いを開き、CDを製作して普及に努める。

底部に小さな穴を開けたかめを逆さまにして埋める。穴から落ちた水滴がたまり、そこにさらに滴がしたると、キーン、コロンと澄んだ音がかすかに聞こえる。造園技術としてでなく、楽器として水琴窟にひかれた。

「究極のいやしの音を追求したら巡り合った。自然が奏でる無限の広がりを感じて欲しい」

鷺見は福祉の仕事をしながら、邦楽器によるテクノバンド「KANADE」に所属する。

押さえる指先で響きを感じる。骨に直接伝わり、満足する音が出ると全身が震える。

「何も考えず吹いていると、心がふっと軽くなる。仕事に参ることもあるが、行き詰まらないでいられたのは尺八があったから」

桜井は大阪芸大ピアノ科時代、旅したヨーロッパでアジアの血を意識した。様々な民族音楽に触れるうち、自分が持っていた西洋音楽の常識を覆された。

そんなとき声明に出あった。本来は僧が法会などに独特の旋律で唱えるもの。仏を賛嘆することは響きに不思議と魅せられた。

「音楽家は心の感動を歌う。神を賛美する感情も、喜びの表現」

心を打つ響きを見いだした時、民族や宗教を超えて世界がつながると信じる。

ライター 松原亜希子 (敬称略)

と奇声を発しながらロビーを走り回る子供たちの姿がこれじゃ、まるで運動会だよ。その隣では、大家族が記念写真を撮っている。アレレ、ここはどこ？ 本当ここは高級ホテル？

世間は夏休み、このホテルの近辺には、レジャー施設が多い。迂闊だった。

「昨日に比べれば、あまり混雑していない方なんですよ」と案内係、やれやれ、都会



ホテルの「寛ぎの時間」プラン。宿泊料金だけで、こんなにオマケが付いてくるなんて「女に生まれて良かった」とニンマリと思うのは、私だけではないようで、やはりホテルの人気商品なのだそうた。

「寛ぎの時間」たなんて、お疲れ気味の自分へのご褒美にもピッタリじゃない、と夢見る気分ホテルへ行ってみたい。すると目の前を、

「キャー、キャー」



高級ホテルも宿泊客の獲得のために、アレコレ知恵を絞っているところ。お得なプランは利用しなくちゃね、ということまで体験してきましたホテルのレディスタッフ。

私がチョイスしたのは、宿泊代にアロマエステ（1万円分）と朝食（2800円分）、そして憧れのスパ利用が特別価格（千円）になるという某

今週のテーマ
ホテル
 寛ぎレディスタッフ
 ロビーに響く奇声
 ギイと髪を鷺掴み
 ライター 青池里佳